

吉富町多世代交流型複合施設整備事業 基本設計 概要版

---

1. コンセプト・計画概要	1頁
2. アクセス計画・外観計画・配置計画	2頁
3. 平面計画・内観計画	3頁
4. 断面計画・ひろば計画	5頁
5. 構造計画	6頁
6. 整備計画・補助金目標	7頁

令和8年2月

志賀設計・MAEDA DESIGN LAB 共同企業体

## ● コンセプト



### 多世代交流型複合施設の基本方針 - まちのリビング -

吉富町の未来を担う子どもたちや、今を支える大人の皆さんが必要とする住民サービスを、「みんなが・いつでも・自由に・気軽に集える」「居心地がよく・ちょっとオシャレで・ちょうどいい」そんな場所で受けることができる、子育てや健康への不安を、「便利で・安心安全で・有意義な」環境の中で解決できる、そんなくまちづくりの拠点となるく多世代交流型複合施設のテーマを、『まちのリビング』と致します。このく多世代交流型複合施設は、「ウェルビーイング」の理念を大切に、心と身体の健康を支え、人と人とのつながりを育みながら、一人ひとりが自分らしく安心して過ごせる環境を創出する施設です。

多世代が自然に交わり、交流することで生まれる豊かさや喜びを享受できる場として、イベントの開催や多彩な情報発信をすることで地域活性化を目指します。また、日々の生活の中で生じる悩みや不安に寄り添い、その解決の糸口を見出すことができる、地域にとっての癒しと支え合いの場となることを目指します。

そして、「この多世代交流型複合施設があるから吉富町に住んでいてよかった」「行ってみたい」「住んでみたい」と思ってもらえる、まちの誇りとなる施設となることを目標とします。

### 多世代交流型複合施設的基本的3機能

#### (1) 子育て支援機能

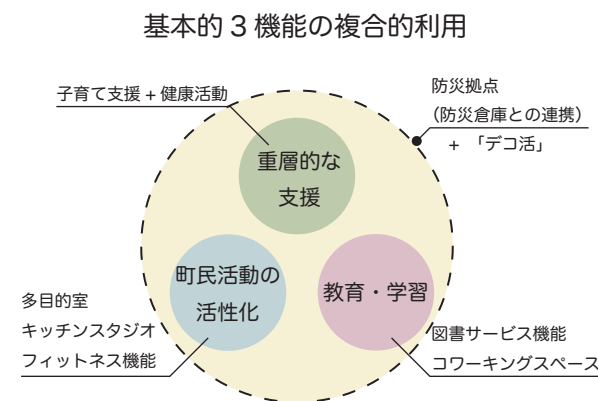
子どもを育てる家族、これから子どもを持つ家族、障がいがある子どもを抱える家族など、あらゆる状況の子育てに関わる町民をサポートする機能をく多世代交流型複合施設の中に整備する。

#### (2) 生涯健康支援機能

子どもから高齢者に至る全ての世代の人たちの身体と心の健康をサポートする機能を、く生涯健康支援機能と称して、く多世代交流型複合施設の中に整備する。

#### (3) 図書サービス機能

図書、文字、画像、映像などの情報をアナログからデジタルまでさまざまな伝達ツールを用いて利用者に提供するサービス機能をく多世代交流型複合施設の中に整備する。また、子ども連れでの利用や、学生の勉強での利用、家庭や公民館からのリモート利用など、多世代が「何処でも・自由に・気軽に」使える図書サービス機能を整備する。



## ● 計画概要

### (1) 敷地概要

地番 : 福岡県築上郡吉富町大字広津 640-3,641-1, 643-3,645-1,645-4,647-1  
 住居表示 : 福岡県築上郡吉富町大字広津 641-1  
 用途地域 : 第一種住居地域  
 敷地面積 : 公簿 7,538.56 m<sup>2</sup> 実測 : 7,520.31 m<sup>2</sup>  
 道路 西 : 1.490m  
 南 : 5.80m(道路台帳より)  
 基準建蔽率 : 60%  
 基準容積率 : 200%

### (2) 建築計画概要

#### ① 新複合施設

工事種別 : 新築  
 建築面積 : 1,997.20 m<sup>2</sup>  
 延床面積 : 1,997.20 m<sup>2</sup>  
 階数 : 1階建  
 各階面積表 : 1階…1,997.20 m<sup>2</sup>

#### ② ひだまり

工事種別 : 改修  
 建築面積 : 481.46 m<sup>2</sup>  
 延床面積 : 695.44 m<sup>2</sup>  
 階数 : 2階建  
 各階面積表 : 1階…417.00 m<sup>2</sup>  
 2階…278.44 m<sup>2</sup>

#### ③ 既存建物解体

建物名称 : 子育て支援センター  
 工事種別 : 解体  
 建築面積 : 1,025.09 m<sup>2</sup>  
 延床面積 : 829.08 m<sup>2</sup>  
 階数 : 1階建  
 各階面積表 : 1階…829.08 m<sup>2</sup>

### (3) 構造計画

#### ① 新複合施設

構造種別 : 鉄骨造  
 構造形式 : 鉄骨ラーメン架構 + 一部ブレース構造  
 基礎構造 : 独立フーチング基礎  
 支持形式 : 柱状改良(予定)

### (4) 電気設備計画概要

受変電設備 : 高圧 600kVA  
 屋外キュービクル型受変電設備  
 照明設備 : LED照明本体、廊下LED  
 ダウンライト照明  
 コンセント設備 : 閲覧室コンセント容量 30VA/ m<sup>2</sup>程度  
 事務室コンセント容量 50VA/ m<sup>2</sup>程度  
 防災設備 : 自動火災報知設備、非常照明、  
 誘導灯設備  
 その他弱電設備 : 車椅子トイレ非常通報設備、  
 電話・LAN用配管  
 発電設備 : 太陽光発電パネル、非常用発電機

### (5) 空気調和・換気設備計画概要

熱源設備 : 電気  
 空調設備 : 床吹出空調、単一ダクト空調方式  
 全熱交換器 + 天井カセット型  
 エアコン方式  
 換気設備 : 居室第1種換気(空調機/全熱交換器)  
 倉庫・機械室第1・3種換気、  
 トイレ・湯沸 第3種換気  
 中央監視盤設備 : 電源・空調等の集中監視制御

### (6) 給排水衛生設備計画概要

給水設備 : 直結方式  
 給湯設備 : 湯沸室は電気温水器による局所方式  
 衛生器具設備 : 節水型器具の採用  
 排水・通気設備 : 建物内…汚水雑排水分流、  
 建物外汚水…雨水式分流方式  
 消火設備 : 消火器

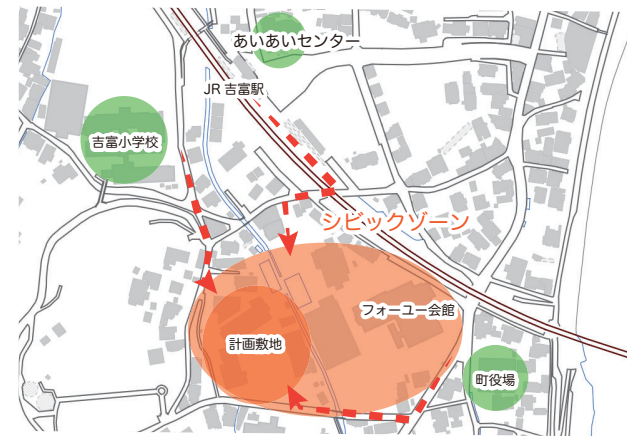


敷地周辺の航空写真

## ● アクセス計画

今後想定される立地適正化計画による都市計画を含めた『コンパクト・プラス・ネットワーク』のまちづくりを念頭に置いた計画・検討を行う。吉富駅や吉富小学校、町役場、フォーユー会館等、シビックゾーン全体のアクセス動線に配慮する。

また、本計画に必要な機能の整理と共にシビックゾーン内の既存施設の機能整理と再構築を行う。



## ● 外観計画



新しい複合施設を威圧感のない平屋建て建築とし、地域に開かれた「まちのリビング」にふさわしい、親しみやすくアットホームな空間づくりを目指す。広場を中心とした一体的な景観形成を行う。

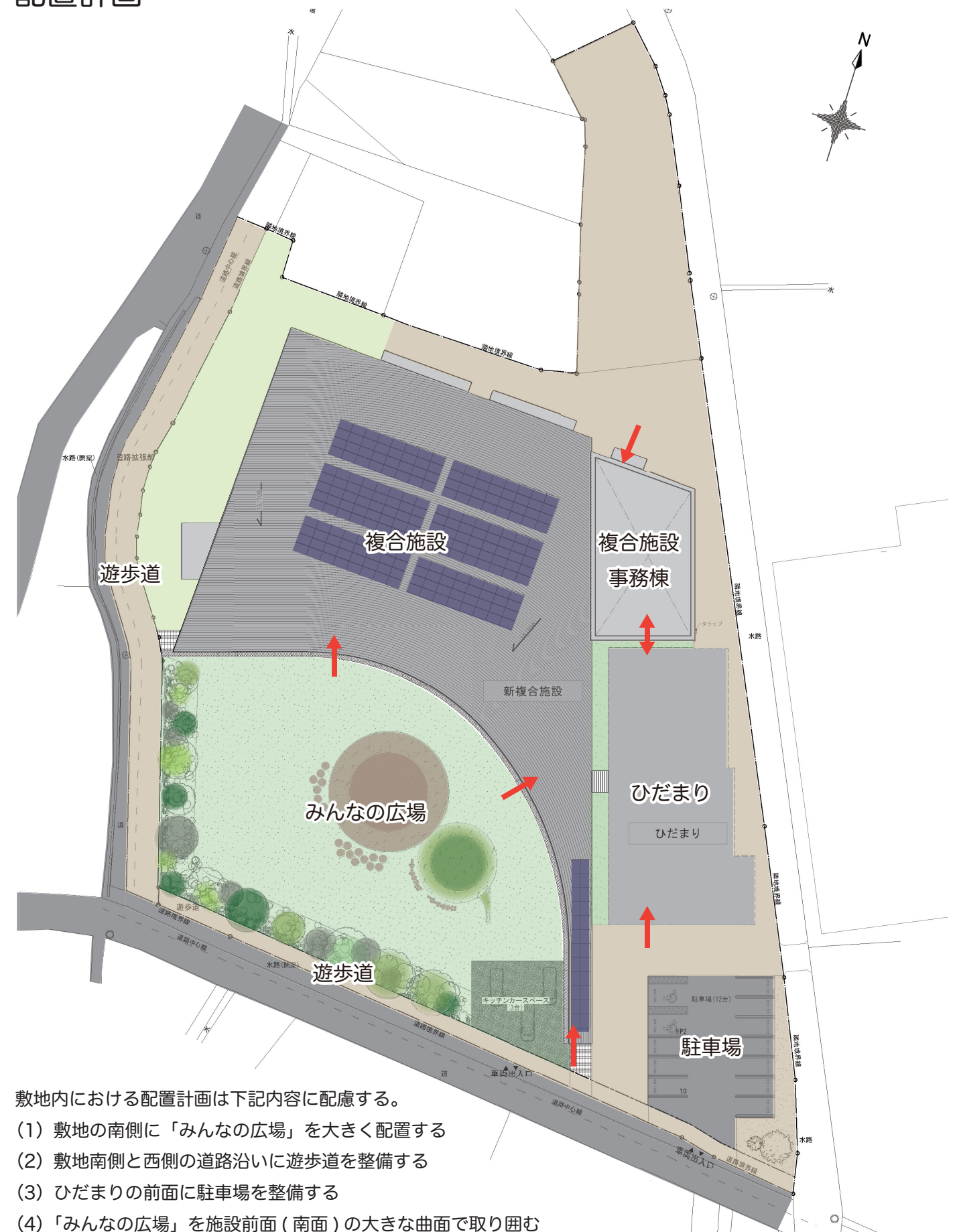
### (1) 新複合施設の外観計画

- ・正面（南側）の軒高を約4mに抑え、圧迫感を軽減する。
- ・正面外壁は半径45mの大きな曲面形状とし、「みんなの広場を取り囲む」包容的な空間構成とする。
- ・建物前面に奥行2.8mのパーゴラを設け、日差しを和らげる環境装置と滞留・交流を促す“エンガワ”をつくる。
- ・パーゴラはエントランスのキャノピーを兼ね、動線上の象徴的なゲート空間を形成する。
- ・外装材および色彩は、木の肌合いを意識した素材感とし、温かみのある景観を創出する。

### (2) 既存ひだまり棟の外観計画

- ・新施設との意匠的統一を図るため、既存のひだまり棟を改修する。
- ・2階壁面および南側妻面にルーバーを新設し、ファサードのデザイン統一を図る。
- ・外装材および色彩を、木の肌合いを意識した仕様へ改修し、施設全体としての一体感を創出する。

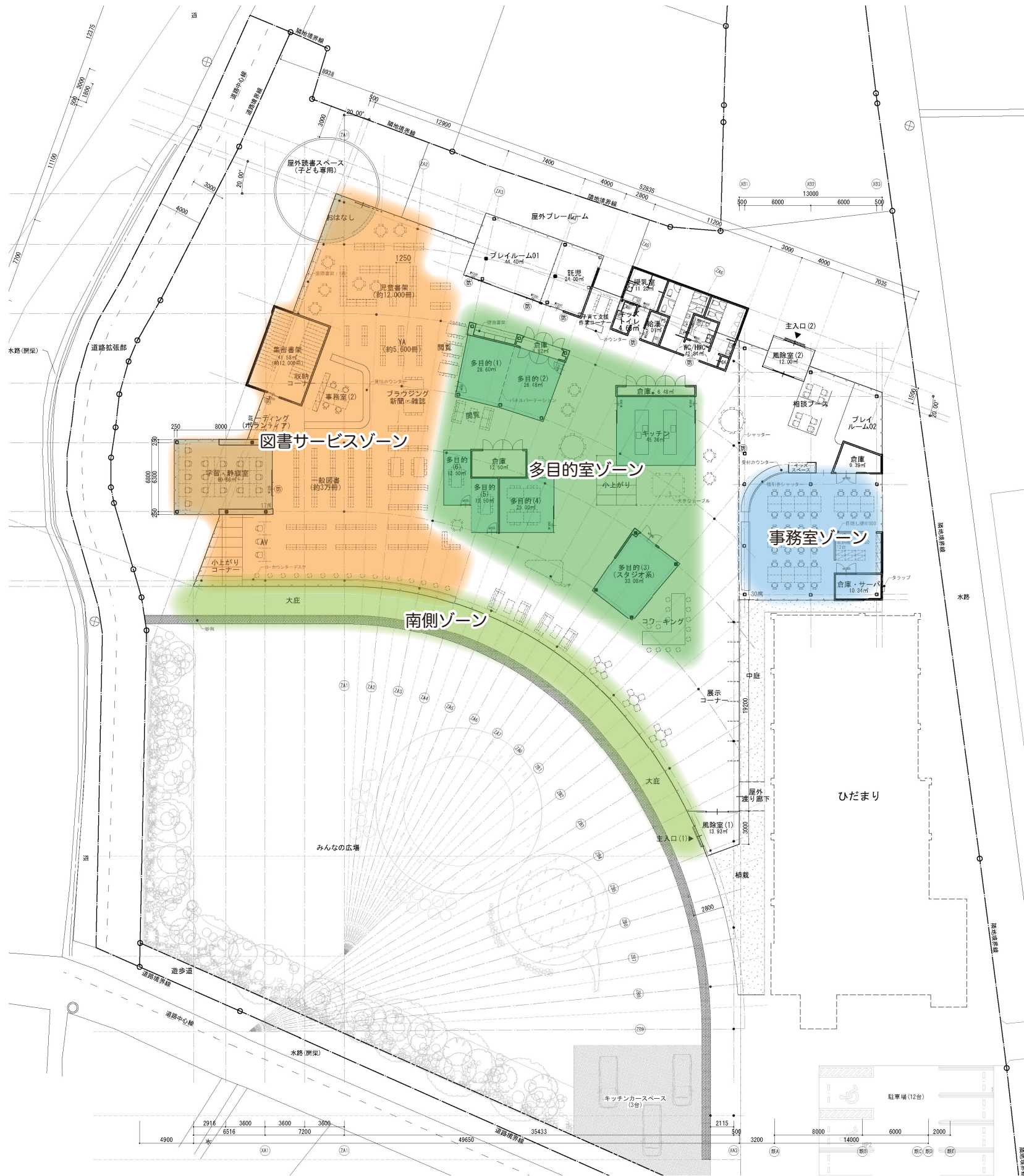
## ● 配置計画



敷地内における配置計画は下記内容に配慮する。

- (1) 敷地の南側に「みんなの広場」を大きく配置する
- (2) 敷地南側と西側の道路沿いに遊歩道を整備する
- (3) ひだまりの前面に駐車場を整備する
- (4) 「みんなの広場」を施設前面（南面）の大きな曲面で取り囲む
- (5) 「みんなの広場」には随所に楽しい植栽を配置する
- (6) いろいろな箇所からアクセスできる施設とする

## ● 平面計画 (1階)



## ● 内観計画

「まちのリビング」にふさわしい、親しみやすくアットホームな空間づくりを基本理念とする。また、施設全体を視覚的・空間的に連続させ、一体感のあるオープンスペースとして構成する。

### (1) 空間構成計画

- ・新施設内の各ゾーンについては「インドア・アーバニズム (室内都市)」の手法を導入し、屋内でありながら多様な居場所や風景を感じられる構成とする。
  - ・機能ごとに緩やかにゾーニングしながら、それぞれに異なる表情と居心地を持たせる。
- |              |              |           |
|--------------|--------------|-----------|
| 1. エントランスゾーン | 3. 多目的室ゾーン   | 5. 事務室ゾーン |
| 2. 南面ゾーン     | 4. 図書サービスゾーン |           |

### (2) 空間ボリューム計画

- ・内部空間は、中心から放射状に天井高さ4メートルから8メートルへと変化する立体構成とする。
- ・高さの変化により、開放感と包容感を併せ持つダイナミックな内部空間を創出する。

### (3) インテリア計画

- ・自然素材を積極的に採用し、人と環境にやさしい内装計画とする。
- ・木の肌合いを意識した落ち着いた色彩・素材構成とし、温かみのある空間を形成する。
- ・長時間滞在しても心地よい、安心感のあるインテリアデザインとする。



図書スペース01



図書スペース02

## ● 内観計画



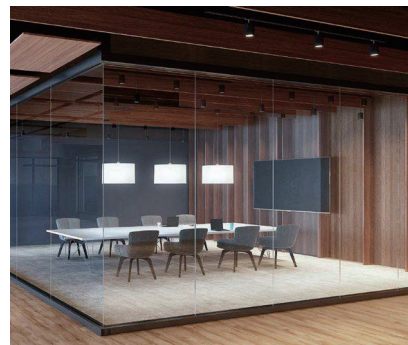
エントランス



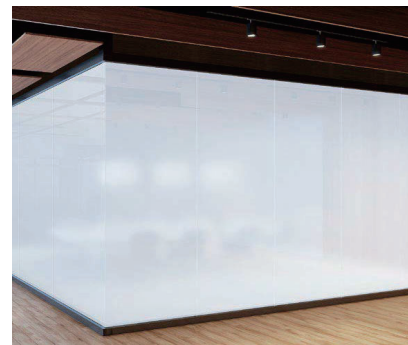
多目的室・コワーキングスペース

多目的の視認性については、透明性とプライバシーの確保を考慮し、調光フィルムまたは半透明ガラスフィルム、ミラーガラスの採用を検討する。

(調光フィルム イメージ画像)



電気 ON : 透明



電気 OFF : 不透明

## ● 書架・家具配置計画について

### 基本方針

- ・図書サービスゾーンの書架および家具計画は、多世代の利用に配慮するとともに、「まちのリビング」にふさわしい居心地と滞在性を備えた空間づくりを行う。
- ・開放性と安心感を両立し、世代ごとに適切な居場所を確保する構成とする。

### (1) ゾーン構成

- ・図書サービスゾーンは、以下の5つのゾーンで構成する。尚、各ゾーンは機能に応じて緩やかに区分しつつ、視覚的な連続性を保つ計画とする。

1. 一般図書ゾーン
2. ブラウジングゾーン
3. AV (オーディオビジュアル) ゾーン
4. YA (ヤングアダルト) ゾーン
5. 児童図書ゾーン

### (2) 書架計画

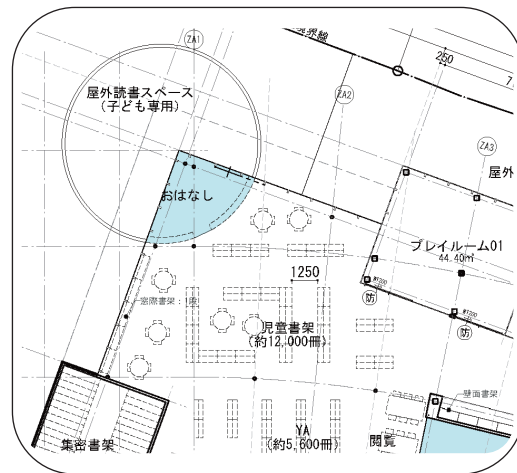
- ・5～6段の書架を基本とし、通路幅1.2m以上を確保し、かつ主要動線は1.8m以上を確保する。
- ・書架列は長すぎる「壁」をつくらないように途中で折り返しや抜けを設け、見通しと避難動線を確保する。
- ・文庫・新書、一般書、大型本・美術書など、本のサイズごとに棚段数・奥行を変えた書架を設ける。
- ・配架計画は実施設計にて継続協議を行うこととする。

### (3) 児童図書ゾーンの特徴

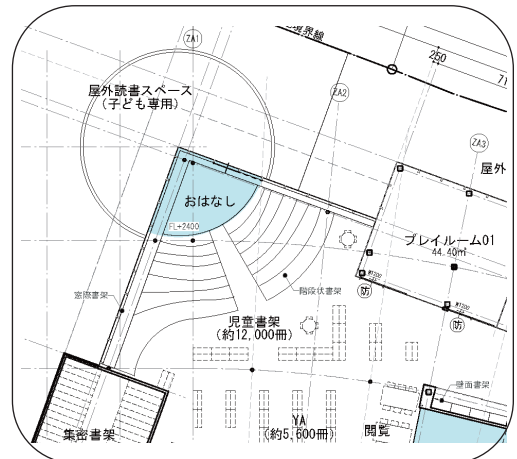
- ・2～4段の低書架を採用し、絵本棚や踏み台無しで利用できる範囲の壁面書架を採用する
- ・書架高さは、児童エリア全体を見渡せるレベルに抑え、閉塞感を避けて安全な見守りを確保する。

### (4) 学習スペース計画

- ・児童の学習利用に対応するため、「グループ利用に対応したテーブル席」と「個人利用に対応した集中型席」を適切に配置する。
- ・用途に応じた家具計画により、学習環境の多様なニーズに応える。



児童書架スペース A 案 (本棚ブース型)

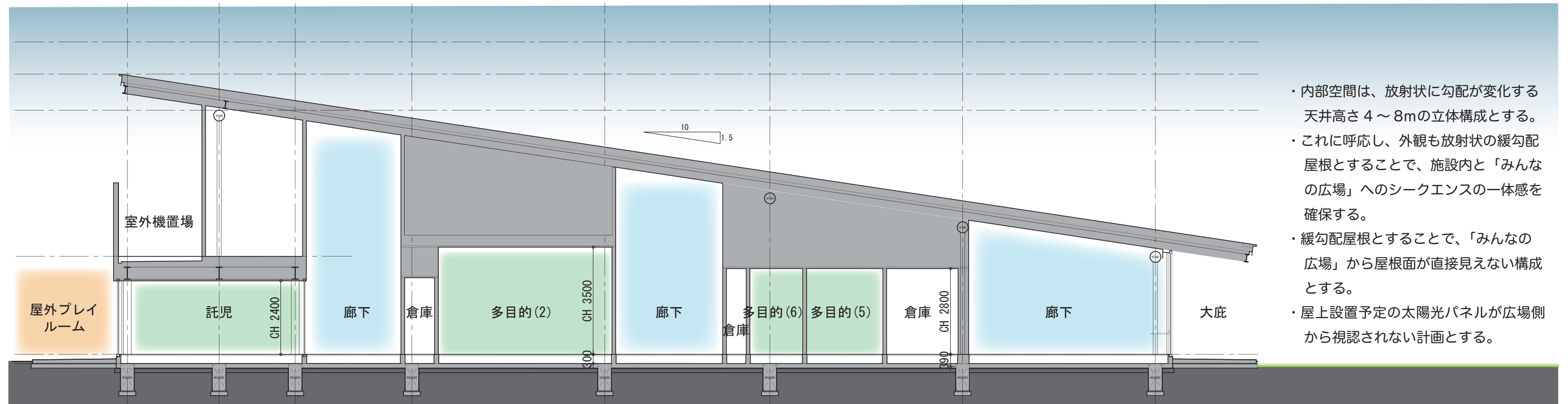


児童書架スペース B 案 (階段状書架型)



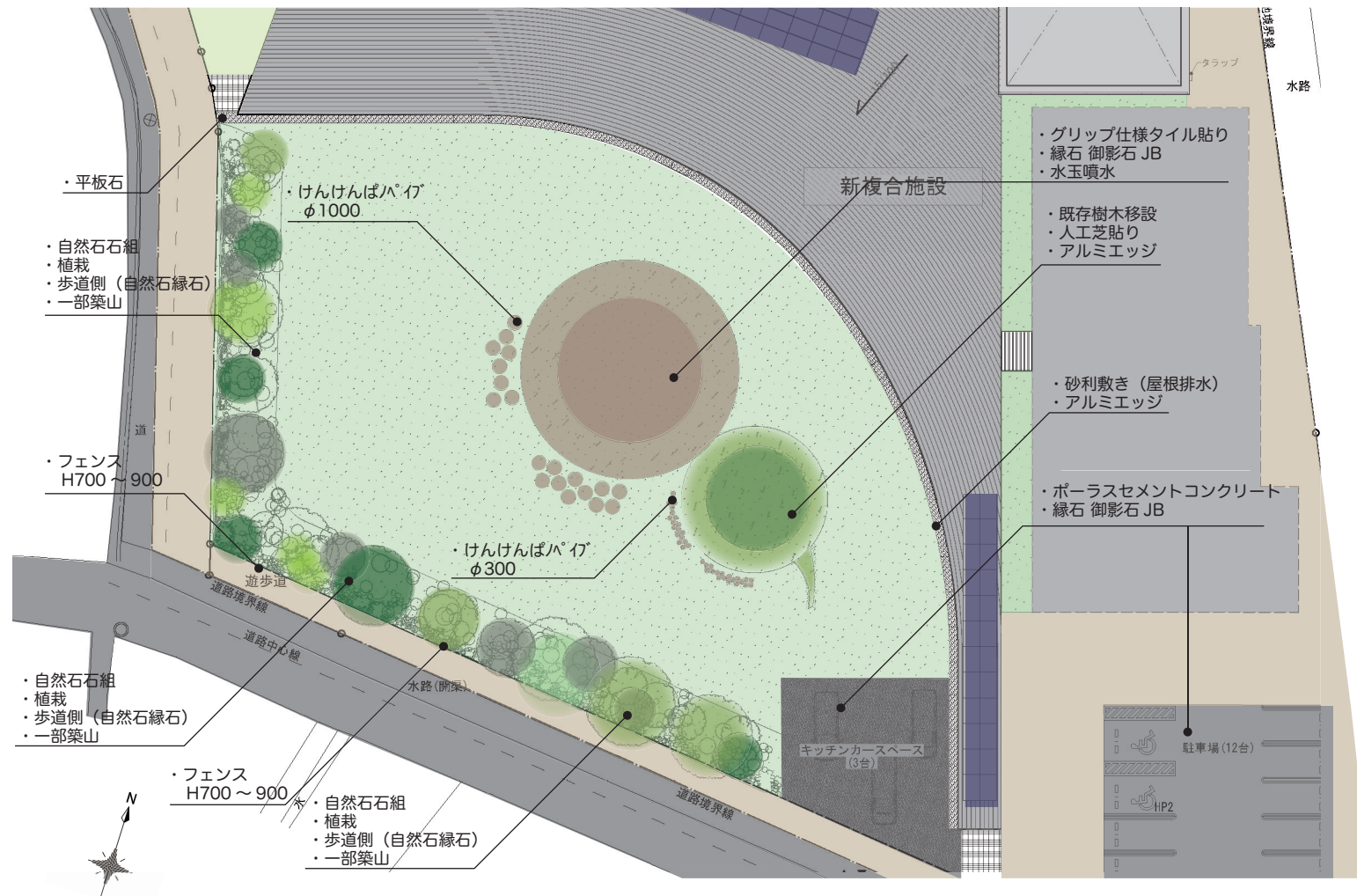
児童書架スペース B 案 (階段状書架型) イメージパース

## ● 断面計画



- ・内部空間は、放射状に勾配が変化する天井高さ4～8mの立体構成とする。
- ・これに呼応し、外観も放射状の緩勾配屋根とすることで、施設内と「みんなの広場」へのシークエンスの一体感を確保する。
- ・緩勾配屋根とすることで、「みんなの広場」から屋根面が直接見えない構成とする。
- ・屋上設置予定の太陽光パネルが広場側から視認されない計画とする。

## ● ひろば計画



### (1) 駐車場・キッチンカー乗り込みエリア

透水性ポーラスコンクリート舗装 同等品 (車路)  
浸水区域である本敷地にて、雨水流出量削減による河川負荷軽減や地下水の涵養による水循環改善にも寄与する。



### (2) ビオブロック 同等品 (駐車桟)

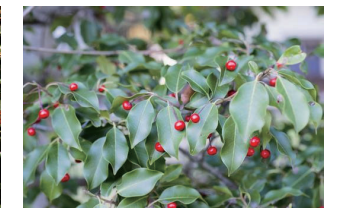
駐車桟はみどりの面積を確保し、また夏場の舗装面の放射熱を軽減する為にビオブロックとする。



### 樹種 (抜粋)



キンモクセイ



ソヨゴ



ナナミノキ



イロハカエデ



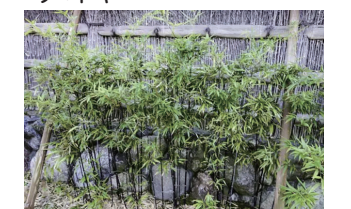
ヤマモミジ



アオキ



ヤシノキ



クロチク

# ● 構造計画

## (1) 構造計画概要

### 〈設計目標〉

- ・ 上部構造は各荷重に対し部材の強度・耐久性・耐火性を確保し、有害な変形や振動を起こさないようにする。
- ・ 基礎構造は沈下等の障害を生じさせず上部構造を確実に支持し、耐久性・経済性のバランスのとれた形式とする。

### ① 上部構造計画

#### 構造計画

- ・ 建物全体は鉄骨造のラーメンフレーム形式を基本とする。
- ・ 構造設計は靱性能に富んだ主のラーメン架構を耐震コアとして数か所点在させながら効率的に全体の水平力を負担させ、内部空間に散りばめた繊細な鉄骨ポスト柱が屋根を支えている構成である。

#### 建物規模

- ・ 地上2階建て、地下階無し

#### 構造形式

- ・ 鉄骨造ラーメン架構（一部鉛直ブレースあり）とする。
- ・ 2階床（屋上床）はデッキスラブ、屋根は軽鉄下地による乾式屋根とする。
- ・ 屋根は水平ブレースを適切に設けることで水平剛性を確保して耐震コアフレームへの応力伝達を行う。
- ・ 耐震コアとなるラーメンフレームの柱脚は、ベースパック工法などの既製品の半剛接露出柱脚とし、安定した剛性および靱性能の確保に努める。

### ② 基礎構造計画

- ・ 基礎形式は独立フーチング基礎形式とし、負担軸力に対して柱状改良等の杭状地盤改良にて、支持層まで安定して荷重伝達を行うものとする。

## (2) 構造設計方針 〈耐震設計方針〉

- ・ 本計画建物の設計ルートは、耐震設計ルート2を採用し、 $C_0=0.2$ として許容応力度計算を行う。
- ・ 「官庁施設の総合耐震計画基準」により、構造体の耐震安全性の分類をⅡ類とし、標準せん断力係数に乗じる重要度係数は1.25とする。
- ・ 地震地域係数Zは福岡県より $Z=0.8$ を採用する。
- ・ 偏心率が15/100以下となることを確認する。

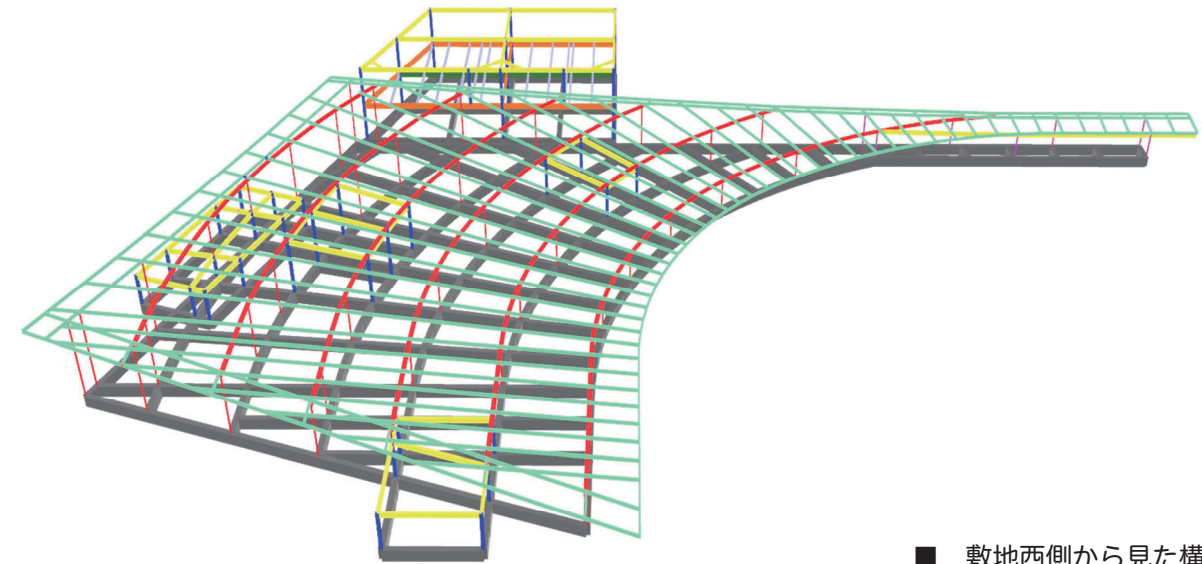
## (3) 設計荷重（右図参照）

- ・ 代表的な用途の床荷重表は以下となる。（単位：N/m<sup>2</sup>）

室名	床・小梁	柱・大梁	地震	備考
事務室	3,900	2,100	1,100	
図書室	5,900	5,400	4,900	
機械室・ポンプ室	7,800	6,900	4,900	
機械室・ポンプ室	4,900	2,400	1,300	
企画・展示室	3,500	3,200	2,100	
エントランスホール	3,500	3,200	2,100	
廊下	3,500	3,200	2,100	
階段	3,500	3,200	2,100	
便所	1,800	1,300	600	
屋根	490	300	200	
バルコニー・庇	1,800	1,300	600	

## (4) 使用材料

- コンクリート :  $F_c=24$  N/mm<sup>2</sup>
- 鉄筋 : D19以上 SD345  
D16以下 SD295A
- 鉄骨 : 柱 BCR295、STKN400B、STKR400  
梁 SN400B、STKN400B  
ブレース SS400、SNR400B
- デッキスラブ : QL デッキ同等品



■ 敷地西側から見た構造架構イメージ

# ● ひだまり構造改修計画

新複合施設建設に伴い、隣接する住民福祉センター「ひだまり」を一部改修し新複合施設と一体的に利用する計画である。

## (1) 主な改修内容

- ① 1階北側に多目的ホールを設置するため既存壁の一部を撤去する。
- ② 2階南・西外壁面にルーバーを設置する。

## (2) 構造安全性確認の基本方針

- ① 建築基準法上は新設建物と敷地分割し、「ひだまり」単独で大規模な改修に当たらない範囲の改修（確認申請対象外）とする。
- ② 平成26年耐震改修工事時に補強耐震診断は実施済みであり、この時点での耐震安全性が確認されていると判断する。
- ③ 今回の改修に対する検討の基本方針

### ・長期安全性の確認

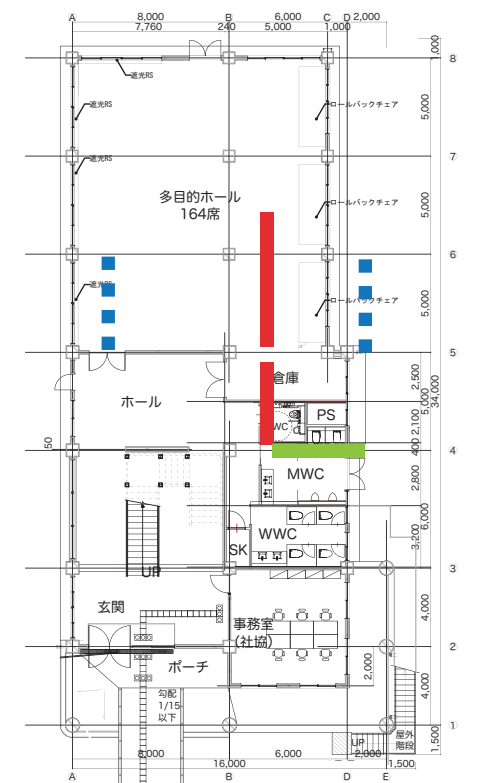
荷重増とならないことを前提とし、耐震診断上耐震壁である壁の撤去は、撤去壁上部の梁の長期安全性を適切な方法で確認し、必要な補強を行う。

### ・地震時安全性の確認

平成26年耐震改修診断報告書を基に、耐震診断を再度実施し、必要な場合は耐震補強にて判定基準を上回ることを確認する。計算上補強が不要の場合も現状から大きく耐力低下しない様に配慮する。

## (3) 補強概要

上記の検討結果による補強内容を図1に示す。2F外壁ルーバーの設置は現状より荷重増となるが、平成26年の耐震改修で撤去された同位置の屋根底、2階底重量に比べ十分軽量である為、元設計からは荷重減となる。壁撤去部分の2階梁は元設計では壁無しとして設計されている。従って梁の応力変化は無いが、剛性変化に伴う応力再配分に配慮し補強を行う。耐震補強は地震時耐力が現状から大きな変化の無い様配慮して決定する。



(図1) 1階概略補強内容

- …壁撤去部分 2G 補強 (下部増打鉄筋補強)
- …補強鉄骨ブレース (H-200×200)
- …補強 開口付耐震壁 (EW20)

## ● 整備計画

本事業では、敷地内の既存学童施設の将来的な扱いが重要な課題である。小学校教育と学童保育は対象年齢や、生活動線が共通し、機能・施設・業務の集約による効率化と質の向上が期待できる。また就学児の生活サイクルにおいて関係の深い吉富小学校との距離を解消するため、学童施設は現在地から吉富小学校敷地内へ移設するのが最適と判断した。

一方、老朽化により用途を終えたプール跡地は、地域の利便性向上と防災機能強化のため当面は多目的活用し、将来的には公共施設再整備用地としての利用も視野に入れる。

これらを踏まえ、基本設計では下記のようなローリング計画を検討する。

### ① 放課後児童クラブの解体工事



### ② 子育て支援センター・プールの解体工事



### ③ 新複合施設建設工事・ひだまり改修工事



### ④ プール跡地 駐車場整備工事



## ● 補助金目標

本計画では、次の補助金活用を検討する。

### (1) 本体工事：地域未来交付金（地域未来推進型・拠点整備事業）

地方の暮らしの安定や地域活力の最大化につながる、自治体独自の取組を支援するもの。産業クラスター計画や地場産業の成長戦略に資する事業を対象とし、ソフト・ハードや分野横断型の事業を一体的に支援する。検討・実施・検証の各段階で、地域の多様な主体の参画が求められる。

### (2) 周辺インフラ：同インフラ整備事業

(1)と組み合わせて実施する地方創生に資するインフラ整備を対象とする。対象は治山治水、道路、港湾・空港・鉄道、住宅・都市環境、公園・上下水道・廃棄物処理、農林水産基盤、社会資本総合整備、推進費等に該当する、国庫補助事業である。

### (3) ICT：地域未来交付金（デジタル実装型）

デジタルを活用して地域課題の解決や魅力向上を図る事業を対象とする。具体的には、優良モデルやデジタルサービスを活用し住民等が効果を楽しめる取組、複数自治体が共同で新技術等を活用し社会課題解決を進める取組、さらに国・地方の標準的なデジタル基盤への横展開が見込まれる先行モデル的な取組が含まれる。

### (4) 子育て支援：次世代育成支援対策施設整備交付金

都道府県、市町村等が策定する整備計画に基づき実施される、児童福祉施設等および障害児施設等の整備事業に交付される。

### (5) 太陽光等：二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金

再エネ熱利用や、自家消費・災害時の自立機能を備えた再エネ発電設備（太陽光発電設備を除く）の導入について、一定のコスト要件を満たす場合に、計画策定や設備導入を支援する。